

## 造影検査(CT・MRIなど)を受けられる方へ



この度のCT・MRI検査では造影剤という薬を使用(血管内注射)しての検査が予定されています。造影剤は体の中をより鮮明に写し出し、詳しい検査をするために必要な薬です。また、病気の中には造影剤を用い、適切な撮影をしないと診断できないものがあります。

造影剤の必要性和危険性をよく理解していただいた上で安全に検査を行うために、下記の事項をよくお読みください。造影剤の使用に同意される方は

別紙の造影剤使用(CT・MRI等)同意書(承諾書)に必要事項を記入して、署名していただいたうえで、検査当日に予約表と一緒に持ちください。

- ① 造影剤アレルギー歴のある患者さん、あるいは疑いのある副作用が以前にあった患者さんはかならず検査前に申し出てください。
- ② 気管支喘息(ぜんそく)の方にはMRI検査では、造影剤は使用しません。かならず申し出てください。
- ③ 高度の甲状腺疾患(バセドウ病など)のある患者さんでは、CTの造影剤は悪化させるおそれがありますので、かならず申し出てください。
- ④ 造影剤の副作用には悪心・嘔吐・のどの渇きなどの消化器症状、動悸・不整脈などの循環器症状、頭痛・あくび・めまいなどの神経症状、じんま疹、かゆみ、皮膚の発赤や目の充血、くしゃみ、鼻づまり、などの過敏症があります。CT検査での出現頻度は全体では3.5%以下で、重篤なショック、アナフィラキシーなど、重症の頻度は0.004%未満(2万5000人に1人の確率)です。MRI検査では副作用の出現頻度は全体で1.2%以下です。
- ⑤ 造影剤の使用に当たっては、細心の注意をもって、慎重におこないます。副作用が出現した場合には、症状に応じた適切な処置、治療をただちにおこないます。
- ⑥ 副作用は脱水、低血糖の場合におきやすいので、体調をなるべく整えておいてください。長時間(12時間以上)の絶飲絶食はかえって悪心・嘔吐を起しやすいです。とくに医師、看護師より指示がない場合、1時間ぐらいの間隔をあけて少量(一口、二口)の水分を摂取することは構いません。牛乳や果汁を含むものは避けてください。
- ⑦ 遅発性副作用(検査後1時間から数日後に発疹、じんま疹、悪心、嘔吐、血圧低下、頭痛など)が起こる場合がありますので、検査当日の遠出や飲酒、過労は避けてください。
- ⑧ 検査後は造影剤を尿と一緒にからだの外に出すために、いつもより多めに水分をとってください(水分制限されている方はお申し出ください)。
- ⑨ また検査終了後、1時間から数日後にも発疹(じんま疹)・吐き気等の症状が見られる場合もあります(遅発性副作用)。このような症状が見られた際にはかならず下記にご連絡下さい。

丸山記念総合病院 048-757-3511 (代表)

放射線科直通 048-757-3512 (内)2621

- ⑩ 同意書(承諾書)に記入されたあとでも、当日、同意をとりさげることは可能です。また、拒否された場合でも、実際の診療において患者さまが不利になることはありません。
- ⑪ その他、わからないことや気になることがありましたら、検査担当者にお申し出ください。
- ⑫ **糖尿病薬を服用されている場合には、かならず申し出てください。**

